

第3群 排卵に関連する基礎的諸問題

43. 無排卵症卵巣の folliculogenetic function に
関する形態学的, 機能形態学的研究
(京大)

西村 敏雄, 森 崇英

われわれは従来から無排卵症卵巣について形態学的, 機能形態学的検討を行ない, 卵巣の有する2大機能のうちステロイド生合成機能に対して重要な意義をもつ閉鎖卵胞のあることをすでに指摘したが, 引続き folliculogenetic function に関する知見を得る目的から以下の方法で検討した。

楔状切除術を施行した38例の無排卵症を in situ における尿中 total gonadotropin の測定成績から, hypergonadotropic ($G_{50} > m.u.u.$), normogonadotropic ($50 < G < 6.25m.u.u.$) および hypogonadotropic ($G < 6.25 m.u.u.$) ovulatory failure の3群に分け, 各群における卵胞の発育と閉鎖の形態像を連続切片作成の上一定の基準にしたがって判定し以下の成績を得た。

1) hypergonadotropic ovulatory failure に属するものでは卵胞要素の絶対的乃至相対的不足が原因となりこれに基く卵胞の発育過程の障害が無排卵の本態をなしていること。

2) hypogonadotropic ovulatory failure に属するものでは下垂体における gonadotropin 分泌の量的不足が原因となりこれに基く卵胞の発育過程の障害および一部排卵過程そのものの障害が無排卵の本態をなしていること。

3) normogonadotropic ovulatory failure に属するものでは原因の部位および性質についてはなお不明であるが, 排卵過程そのもの 障害およびこれに引続く卵胞の発育障害が無排卵の本態をなしていること。

以上のように各群においてそれぞれ無排卵の本態を異にしているが, normogonadotropic 群において排卵障害の原因が除去されない状態が長期に亘ると, 下垂体 gonadotropin による卵胞の閉鎖過程のみが一方的に進行し hypergonadotropic 群において認められた高度の卵胞の発育障害にまで病像が進展する危険性があるので, 可及的速かに排卵誘発手段を講ずる必要があることを強調した。

44. ニホンザルの生殖現象, 殊に排卵に関する研究

II. 月経及び各種排卵徴候と開腹時卵巣所見との相関

(実験動物中央研究所)

沢田 喜彰, 渡辺 満利

(日本モンキーセンター) 和 秀男

昭和42年日本不妊学会総会における第1報で, ニホンザルの自然環境下における分娩・月経に関する観察と腔スメアーなどの排卵徴候観察, 成績の一部を報告した。今回は, 最長1年以上, 連続観察された排卵徴候に基いて, 排卵直後と思われる時期を中心に開腹した際の卵巣所見と排卵徴候との相関について報告した。使用したサルは, いずれも成熟ザルで, 自然気象下個別ケージの5頭と, 空調室内ケージの5頭である。他に空調室内ケージのアカゲザル2頭を対照とした。成績は次のごとくである。1) アカゲザルが空調室内では, 月経周期の季節変動を示さぬが, 現在までが観察ではニホンザルは自然環境下と同じく, 秋及び冬の数カ月以外は無月経または無排卵である。2) 開腹時に新鮮出血黄体の見られた日を, 排卵後1日目と仮定すれば, ニホンザルの黄体期の長さは, 11~14日, 平均12日で, ほぼ, 一定であつた。3) 排卵後数日内の開腹手術は, 次回月経の発来をいちじるしく早めた。4) ニホンザルでは, 卵巣触診, 性皮の変化, 腔スメアーの中間期赤血球出現は不明確であるが, 出血黄体及び開花期黄体を認めた日と排卵徴候との相関についての観察によれば, 角化細胞及び酸性角化細胞出現率は排卵日より1~2日先行してピークを示した。これらを併用し, 黄体期の長さを考慮に入れて2~3週間観察後には, 排卵期の推定は可能と思われた。頸管粘液の量の変化には個体差があり, 直腸温定時測定では定型的二相性を見出せなかつた。

答弁 (実験動物中央研究所) 沢田 喜彰

H. Artman は, サル (*M. Mulatta*) の黄体期の長さは一定ではないとしている。併し, 少数例であるが, 本観察から, サルでも, ヒトと同様に, 黄体期の長さはほぼ一定と考えられた。ただ, 手術などにより容易に短縮する点, ヒトの黄体機能ほど安定しないものようである。

45. 視床下部性 FSH 放出因子の純化とその臨床応用
(群馬大)

松本 清一, 五十嵐正雄, 横田 尚巳
神岡 順次, 江原 洋一, 黛 隆介
平野 敏夫, 海老原英毅, 広野 正啓
佐藤 仁